

私は、生まれも育ちも札幌で、平成 23 年 4 月に、建設コンサルタントである株式会社ドーコンに入社し、その後十数年にわたり、主に北海道において公共事業における環境保全に従事しています。

対象事業は、道路やダム、廃棄物処分場の建設等であり、発注機関も国、北海道、市町村と多岐にわたります。これら、「人の豊かな暮らし」のために行われる事業において、水質や騒音といった「生活環境」や、動植物を対象とした「自然環境」を「保全」するために、日々、奮闘しています。

各種事業において、顧客に「環境保全」を提案し受け入れてもらうために重要なことは、自ら現地に行き、データを取得し現地の環境を理解したうえで、自ら顧客にプレゼンすることです。それは、入社してから今まで変わらず行っていることであり、環境保全に係る技術者として、客観性・説得力がある提案をするためにとても重要なことなのですが、中堅世代になってより強く実感しています。

私は、4 年前の 31 歳の時に技術士を取得しました。環境保全に係る技術者としてのスタンス・行動は変えていませんが、技術士を取得したことで、業務への関わり（管理技術者としての業務参画）、人の繋がり（青年技術士交流委員会の活動への参加）等が大きく変わり、ちょうど中堅世代で立場や関わる人達も変わってきたことから、自分の行っていることが「人の豊かな暮らし」や「環境保全」に繋がっていることを実感しています。技術士としての活動を継続すれば、より多くの成果に直結すると思います。

私には、3 人の子供がいます。子供たちが大人になっても暮らしやすい環境を作るために、これからも環境保全に係る「技術士」として、仕事や各種活動を継続していきたいと思っています。

村上 弘樹 (むらかみ ひろき)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社ドーコン



→次号は、丸山緑さん(建設部門)

1997 年(平成 9 年)に北海道立林産試験場(現(地独)北海道立総合研究機構 林産試験場)に採用されて以来、木材の研究に従事してきました。技術士の登録は 2015 年(平成 27 年度)です。

学生時代の専門は木材組織、すなわち細胞レベルでの木材の構造でしたが、当场では木材や木質材料(合板や集成材など)から放散する揮発性有機化合物、例えばホルムアルデヒドなどの定量とその経時変化に関する研究業務に長く携わっています。

地方公設試の重要な役割のひとつに受託・共同研究などを中心とした産業支援があります。当场では、材料開発と強度試験などがこれに相当します。しかし、私は、どちらかというと、依頼試験や行政支援などで、レギュラトリーサイエンス的な性格の強い化学計測を中心とした業務や、そのための基礎的なデータ収集を中心に行ってきました。液体クロマトグラフィーなどを使った機器分析と統計処理のプログラミングがこの業務の中心です。

木質材料が放散する揮発性有機化合物の測定業務には、木質材料の健康面への安全性を担保するという側面があります。この業務は、公共性が極めて高く、客観的なデータと評価基準に基づいて業務を遂行し、利害関係者に対して公正なサービスを提供する必要があります。一方、化学計測には、常に測定の不確かさがついてまわります。信頼性の高いデータ解釈や意思決定を行う上で、技術士の資格取得を通して身につけた考え方や倫理観が役に立っていると日々感じています。

鈴木 昌樹 (すずき まさき)

●森林部門(林産)

勤務先

(地独)北海道立総合研究機構
林産試験場

→次号は、仁義水緒さん(建設部門)